ロームシアター京都レパートリー作品

市原佐都子／Q『キティ』

10 月 3 日（土）19:00 開演／4 日（日）14:00 開演
＊開場は開演の 30 分
那覇文化芸術劇場なはーと小劇場

上演言語：日本語、韓国語、広東語
字幕言語：日本語、英語
上演時間：110 分（休憩なし）

本日は、ロームシアター京都レパートリー作品　市原佐都子／Q『キティ』にご来場いただき、誠にありがとうございます。

本公演は、公共劇場であるロームシアター京都が、2017 年より取り組む〈レパートリーの創造〉にて、劇作家・演出家の市原佐都子氏と共に、2025 年に創作した作品です。その後、東京、ブリュッセル、ウィーン、パリのフェスティバルを巡り、今年度は岡山、豊岡、北九州を経て、待望の那覇公演を迎えます。
市原氏は、2017 年に那覇市のアトリエ銘苅ベースで初めてのレジデント・アーティストとして滞在し、『妖精の問題』という作品の試演会を行いました。そして、今回 9 年ぶりに沖縄で、そして初めての作品上演となります。
本作品では、家庭や社会における違和感、家父長制や資本主義、大量生産・消費システムのひずみから生じる現代社会の様々な不条理が、市原氏らしい批評的なユーモアと様々に意味を変え繰り返される「かわいい」という言葉と共に、私たちに問いとして突きつけられます。
ご感想は、人それぞれ、さまざまに溢れ出るのではないでしょうか。ぜひ、他のかたと感想を交換し合いながら、ご観劇後もお楽しみいただければと思います。

最後に、本公演の実現のためにご尽力いただきました全ての関係者のみなさまに、厚く御礼申し上げます。

那覇文化芸術劇場なはーと

2024 年、韓国の性売買についてリサーチをしました。キム・ギドクの映画を思わせるような風景のなかで、女性たちはガラス張りのショーケースに入り、赤いライトに照らされていました。それは、肉屋で肉が赤いライトに照らされている光景を思い起こさせました。性行為をする小部屋のカーテンには、あのかわいい子猫がプリントされていました。私はその子猫の真っ黒な目と目を合わせたのです。この体験から、この世界をその子猫の真っ黒な目を通して描くことにしました。

演出のコンセプトは、インドネシアのナイトマーケットで売られていた偽物のキャラクターから発想を得ました。本物よりも、その偽物たちのほうが魅力的に見えたのです。本物のキャラクターの特徴だけを抽出し、それらを組み合わせた結果、どこか違和感のある存在が生まれる。それは、生成 AI にも通じる感覚であり、同時に資本主義社会を象徴する存在のようにも思えました。

この感覚を舞台に乗せたいと思い、俳優自身が「偽物」になっている状態をつくることを考えました。セリフは俳優の声をサンプリングした AI ボイスに読ませ、動きは俳優の身体をモーションキャプチャーで記録し、そのデータをあえて少しずらして加工したものを、再び俳優が振付として覚えて演じています。声も身体も、もとは俳優自身のものですが、そこには本人から少しずれた「偽物」の身体が立ち上がります。

初演では、同世代の韓国、香港、日本の俳優たちとともに創作しました。同じ東アジアで同時代を生きる彼女たちの存在が、この作品をより切実で美しいものにしてくれました。また、南野詩恵（お寿司）さんの衣装、荒木優光さんの音楽をはじめ、多くの優れたクリエイターたちの力によって、『キティ』のユニークな世界が形づくられました。ここに名前を挙げきれない方々も含め、この作品は関わったすべての人々の創造性が重なり合って生まれたものです。

本作は、ロームシアター京都の依頼を受け、城崎国際アートセンターやロームシアター京都で創作を行いました。その後、国内外のさまざまな都市で上演を重ねて、様々な観客と出会ってきました。このたび、沖縄で公演できることをとても嬉しく思っています。沖縄では銘苅ベースにて「妖精の問題」という作品を滞在制作させてもらいました。ワークインプログレス公演をしたとき、一人の観客が観劇後泣いて想いを伝えてくれたことを印象的に覚えています。その時間があったからこそ、作品の核を見失わずに創作を続けることができました。今回も沖縄の観客の皆さんと作品が出会うことで、どのような体験や発見が生まれるのかを楽しみにしています。

市原佐都子



【作・演出】市原佐都子／Satoko Ichihara
劇作家・演出家・小説家・城崎国際アートセンター芸術監督。1988 年大阪府生まれ福岡県育ち。桜美林大学にて演劇を学び、2011 年より Q 始動。人間の行動や身体にまつわる生理、その違和感を独自の言語センスと身体感覚で捉えた劇作、演出を行う。2011 年、戯曲『虫』にて第 11 回 AAF 戯曲賞受賞。2018 年、KYOTO EXPERIMENT 公式プログラムにて『毛美子不毛話』『妖精の問題』を二本立て上演。2019 年、初の小説集『マミトの天使』を出版。同年『バッコスの信女―ホルスタインの雌』をあいちトリエンナーレにて初演し、同作にて第 64 回岸田國士戯曲賞を受賞。2021 年、ノイマルクト劇場（チューリヒ）と共同制作した『Madama Butterfly』をチューリヒ・シアター・スペクタクル、ミュンヘン・シュピラート演劇祭、ウィーン芸術週間、ロームシアター京都(2022 年)を巡演。2022 年、ロームシアター京都「レパートリーの創造」にて、『妖精の問題 デラックス』を上演。2023 年、『弱法師』を世界演劇祭（ドイツ）にて初演。高知・豊岡・東京を巡演後、2024 年にフェスティバル・ドートンヌ・ア・パリで上演した。

【音楽】荒木優光／Masamitsu Araki
1981 年山形県生まれ、京都市在住。アーティスト、音楽家、サウンドデザイナー。音楽の周縁に立つことを起点として、音や映像、声、サイトスペシフィックな要素を取り入れた作品をインスタレーションやパフォーマンス、コンサート作品など多岐にわたる形態で発表する。個展に「わたしとゾンビ」（京都市京セラ美術館 ザ・トライアングル、2021）、グループ展に「モノラルズ」（WHITEHOUSE、2023）など。パフォーマンス作品に「サウンドトラックフォーミッドナイト屯」（Kunstfest Weimar、Festwiese Apolda、2026）、「Voice “Prompts for Endless Dialogue 3,September,2025”」（MMCA ソウル、2025）、Sound Around 004 げんし「空き地の TT」（ロームシアター京都、2024）、など。サウンドデザイナーとしてのコラボレーションや、音楽グループ NEW MANUKE のメンバーとしても活動。

【衣裳】南野詩恵［お寿司］／Shie Minamino
1986 年大阪府出身、京都府在住。劇作家・演出家・衣裳作家。
2016 年舞台芸術団体「お寿司」を立ち上げ、南野が作・演出・衣裳を担当し観客と上演時間・場所を共有する舞台作品を創造する。2019 年京都芸術センター×ロームシアター京都 U35 創造支援プログラム“KIPPU”に選出。衣裳として、2022 年 1 月ロームシアター京都 レパートリーの創造 市原佐都子／ Q「妖精の問題 デラックス」に参加。市原佐都子／Q「キティ」での衣裳を手がける。セゾン文化財団 2026 年度セゾン・フェローI。

11 月 15 日（日）14:00 開催／小劇場
衣裳作家・南野詩恵による「へんしん・ワークショップ〜服じゃないものを着る／着せる〜」
詳細・申込：https://www.nahart.jp/course/kittyisyou0809/

【キャスト】

バーディ・ウォン・チンヤン［Artocrite Theater］



アートクリト・シアター（藝君子劇團／Artocrite Theater）創設者&芸術監督。香港演藝学院でドラマのファインアーツ学士号（第 1 級学位）を取得し、舞台俳優、劇作家、演出家としての地位を確立する。2016 年、Hong Kong Arts Development Council の若手アーティスト賞を受賞。2021 年には、アジアン・カルチュラル・カウンシル（ACC）のニューヨーク・フェローシップに採択される。その他にも、『The Visit』で香港戯曲賞最優秀主演女優賞（悲劇／ドラマ）、『The Truth from Liar』で香港戯曲賞最優秀助演女優賞（コメディ／笑劇）、『Sins』で香港シアターリーブル最優秀脚本賞、『Tête-bêche』で国際演劇評論家協会（IACT）香港センター批評家賞年間最優秀脚本賞、『I am Tree』で IACT 香港センター批評家賞年間最優秀演出賞と香港戯曲賞最優秀監督賞（悲劇／ドラマ）を獲得するなど、長年に渡り数多くの賞を受賞している。

永山由里恵［青年団］



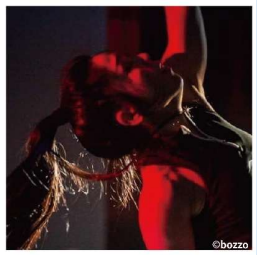
俳優。1988 年神奈川県生まれ。立教大学現代心理学部映像身体学科卒業後、映画美学校アクターズコースで演技を学ぶ。2016 年より平田オリザ氏の主宰する劇団青年団に所属。舞台・映画を中心に活動している。直近の出演作は市原佐都子／ Q『バッコスの信女— ホルスタインの雌』、スペースノットブランク『言葉とシェイクスピアの鳥』、青年団『S 高原から』等。Q の過去出演作は『毛美子不毛話』、『地底妖精』など多数。

中西星羅



ヘーゼルアイズの天然パーマ、てんびん座の 1991 年生まれ。幼い頃から、地元のミュージカル劇団に参加。その後色んな習い事もするも続かず、唯一続いたミュージカルのトレーニングをしようと渡米。シアタージャズ、バレエ、声楽などの修行をしながら、地方劇場にてミュージカル作品に出演。帰国し上京からのコロナ禍で長野に移住。俳優として市原佐都子、川口智子、石神夏希らの舞台に出演。2024 年にダンサー鈴木春香とのユニット"バブシュカブシュカ"を結成し、自身でも創作活動中。

はなもとゆか［はなもとゆか×マツキモエ］



広島県出身。3 歳からクラシックバレエを習い、その後グラハムテクニックやキャラクターダンスも学ぶ。2004 年京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科に入学。2005 年〜2017 年までカンパニーKIKIKIKIKIKI に所属。その他、金粉ショーや、現代美術作家やなぎみわの映像作品にも出演。ダンスシーンに留まらず、劇団ヨーロッパ企画の演劇作品にも多数出演。2008 年以降、ダンスユニットはなもとゆか×マツキモエとしての活動も続け、現在も定期的に京都で自主公演を行う。

作・演出：市原佐都子
音楽・サウンドデザイン：荒木優光
衣裳：南野詩恵（お寿司）
出演：バーディ・ウォン・チンヤン（Artocrite Theater）、永山由里恵（青年団）、中西星羅、花本ゆか（はなもとゆか×マツキモエ）
舞台美術：中村友美
照明：魚森理恵（kehaiworks）、木内ひとみ
音響：稲荷森健、吉田涼
映像：小西小多郎
衣装：キキ花香
舞台監督：川村剛史（ロームシアター京都）、小林勇陽
特殊造形製作：株式会社バボット
演出部：興梠陽乃、村田瞳子
英語翻訳：アヤ・オガワ
初演：ロームシアター京都　レパートリーの創造（2025 年）

那覇文化芸術劇場なはーと
技術統括：岸本智治
制作：土屋わかこ、小堀紘央
広報：山上順子
管理運営：那覇文化芸術劇場なはーと
舞台技術：有限会社新舞台
劇場案内：株式会社りゅうせきフロントライン
託児：すけっと in ナハ

企画制作：ロームシアター京都
レジデンス協力：城崎国際アートセンター（豊岡市）

主催：那覇市
制作：那覇文化芸術劇場なはーと、一般社団法人おきなわ芸術文化の箱、ヨルベ
助成：一般財団法人地域創造
「地域創造連携プログラム」連携館 豊岡演劇祭、北九州芸術劇場、那覇文化芸術劇場なはーと